

ドローン操縦に挑戦

仁賀保高 プログラミングも

仁賀保高校（にかほ市象潟）の普通科1年生25人が25日、小型無人機ドローンのプ

着陸させる動作に挑戦した。プログラミングでは、目的地までの距離を歩幅などで測り、おおよその数値をスマホに入力。予想通りの軌道で目的地に着陸すると、生徒たちは「おー」と歓声を上げた。操縦を体験した三浦柚希さんは「目的地にぴったり合わせるの、意外と難しかった。ドローンに興味を持った」と話した。

同市象潟町の「JUVAVA Cドローンエキスパートアカデミー秋田校」に所属する教官らが講師を務めた。

生徒はスマートフォンやタブレットを使い、操縦とプログラミングに挑戦。操縦では画面をタッチしてドローンを前後左右に動かし、目的地に行われた。

（進藤麻斗）



ドローンの飛行を見守る生徒